



Title	アスペクトと敬語 : 岐阜県高山方言の場合
Author(s)	工藤, 真由美; 清水, 由美
Citation	阪大日本語研究. 2003, 15, p. 1-12
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/10961
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

アスペクトと敬語－岐阜県高山方言の場合－

Aspect and Honorifics in Takayama Dialect of Gifu Prefecture

工藤真由美・清水由美

KUDO Mayumi・SHIMIZU Yumi

キーワード：アスペクト、進行、結果、存在動詞、敬語

【要旨】

岐阜県高山方言には、「シヨル」と「シトル」という有標のアスペクト形式があり、西日本に広く分布する＜進行＞と＜結果＞を異なる形式で表現するアスペクト体系をもつ北限の方言であると位置付けられる。これに対応して、「ござる」という敬語形式を文法化させて「ショゴザル＜進行＞」と「シテゴザル＜結果＞」という敬語のアスペクト体系がある。さらに共通語的な言い方として意識されている「シテミエル」という敬語形式が存在する。他の西日本諸方言と同様に、「シテ形式＋存在動詞」のシトル形式、およびシテミエル形式の方が優勢になりつつある。

1. はじめに

現在、科学研究費の交付を受けて、東北から沖縄までの全国諸方言の動詞の文法的カテゴリーをめぐる類型論的研究を行なっているが、このような研究の前提として、個々の方言の記述的研究が必要不可欠であることはいうまでもない。

岐阜県高山方言は、西日本諸方言と同じく、＜人の存在＞を表す本動詞は「おる」であり、＜進行＞と＜結果＞を異なる形式（シヨル形式とシトル形式）で表すアスペクト体系をもっている。いわば西日本型のアスペクト体系をもつ北限の方言として位置付けられるのであるが、同時に、＜人の存在（おる）と位置変化（来る）＞を表す敬語形式として「ござる」「みえる」が使用されることから、アスペクト体系と敬語との興味深い関係を示している。欧米におけるアスペクトの文法化の研究においては、対象とした諸言語の多くが敬語形式をもたない言語であることから、アスペクトの文法化と敬語形式との関係はまったく提示されていない。そこで本稿では、この点を中心に、岐阜県高山方言の記述を行なうことにしたい¹⁾。

2. 本動詞「オル」「ゴザル」「ミエル」

高山方言における＜有情物の存在＞を表す本動詞は「おる」である。そして有標のアスペクト形式は、「開けよる＜進行＞」「開けとる＜結果＞」のように、「連用形＋存在動詞」の音声的融合形と「シテ形式＋存在動詞」の音声的融合形が、＜進行＞と＜結果＞で対立する²⁾。

高山方言ではさらに、「ござる」と「みえる」の2つの本動詞が、＜おる、来る＞の敬語形式として使用されている。このうち「みえる」については、方言コードそのものではなく＜共通語的な言い方＞として意識されている³⁾。

「ござる」「みえる」ともに、(1)のように＜人の存在＞を表す場合には、アスペクト形式はありえないが、(2)のように＜来る＞の意味を表す場合には、アスペクト対立がある。ただし、「ござりよる」＜進行＞と「ござっとる」＜結果＞のアスペクト対立はあるが、「みえよる」形式は（ほとんど）使用されない。「ござりよる」と「ござっとる」とを比較しても、「ござりよる」の使用の方が稀である。そして、「ござりよる」「ござっとる」と言うよりも「来よござる」「来てござる」という方が普通であり、「みえとる」よりも「来てみえる」の方が普通である⁴⁾。

- (1) (電話で) もしもし、わたしやけど、お母さんござるかな？／みえるかな？

＜いる＞

- (2) うわ、先生がこっちにござりよる。みつからんようにせんと。

＜来つつある＝進行＞

お連れさんはさっきから早やござっとるよ／みえとるよ。

＜来ている＝結果＞

図表 1

「人の存在」の場合

みとめ方 テンス	肯定	否定
非過去	ござる	ござらん
過 去	ござった	ござらなんだ

肯定	否定
みえる	みえん
みえた	みえなんだ

「来る」の場合（下段は対応する否定形式）

アスペクト テンス	完成相	不完成相	パーフェクト相
非過去	ござる ござらん	(ござりよる) (ござりよらん)	ござっとる ござっとらん
過 去	ござった ござらなんだ	(ござりよった) (ござりよらなんだ)	ござっとった ござっとらなんだ

非過去	みえる みえん	*	みえとる みえとらん
過 去	みえた みえなんだ	*	みえとった みえとらなんだ

このように「ござる」「みえる」は、本動詞として<おる、来る>の敬語形式として使用されているのだが、後述するようにさらにアスペクト形式として文法化されていくのである⁵⁾。

3. 基本的なアスペクト対立

3. 1. 「オル」と「ゴザル」の文法化

高山方言のアスペクト体系は、基本的に次のような3項対立型である。「飲む」で示すことにする（★印については後述）。なお、木部(2002)で報告されているような福岡周辺方言とは違って、不完成相の敬語形式は、「飲みござる」ではなく「飲みよござる」である⁶⁾。

共通語的な言い方として意識されている「みえる」がアスペクト形式になる場合には、「ござる」とは違って、「して形式+存在動詞（みえる）」の「飲んでみえる」形式だけである。この形式が表すアスペクト的意味は、後述するように「してござる」形式の意味と同じである。

図表 2

アスペクト		完成相	不完成相	パーフェクト相
テンス	敬意			
非過去	非敬語	飲む	飲みよる	飲んどる
	敬 語	★	飲みよござる	飲んでござる
過 去	非敬語	飲んだ	飲みよった	飲んどった
	敬 語	★	飲みよござった	飲んでござった

有標のアスペクト形式の意味は、敬語形式、非敬語形式ともに、次のようである。基本的に敬語形式と非敬語形式のアスペクトの意味は対応している。（完成相形式のアスペクトの意味は標準語と同じである。）

①＜主体変化動詞＞の場合は、＜変化進行＞と＜主体結果＞のアスペクト対立である。

- ・向こうからうちの子が来よるわ。 ＜変化進行＞
- 向こうから先生が来よござるわ。 ＜変化進行＞
- ・あれ、うちの子も来とるわ。 ＜主体結果＞
- あれ、先生も来てござるわ。 ＜主体結果＞

②＜主体動作客体変化動詞＞では、＜動作進行＞と＜客体結果＞のアスペクト対立になるが、シトル（シテゴザル）形式は＜動作進行＞の意味も表す。従って、工藤(1998)で述べた＜部分対立型＞になっていると言えよう。（＜全面対立型＞の方言では、主体動作客体変化動詞のシトル形式は＜動作進行＞は表さない。）

- ・太郎ならさっきから二階でガタガタと雨戸を開けよるよ／開けとるよ。 ＜動作進行＞
- あ、校長先生が体育館の窓を開きよござる／開けてござる。 ＜動作進行＞
- ・雨戸は太郎が開けとるよ。 ＜客体結果＞
- 体育館の窓は校長先生が全部開けてござるよ。 ＜客体結果＞

③＜主体動作動詞＞では、＜動作進行＞と＜痕跡＞のアスペクト対立になるが、シトル（シテゴザル）形式は＜動作進行＞の意味も表す。

- ・高校生が堂々と酒を飲みよるわ／飲んどるわ。 ＜動作進行＞
- 先生が昼間から酒を飲みよござるわ／飲んでござるわ。 ＜動作進行＞
- ・お前、飲んどるろ。顔が赤いぞ。 ＜痕跡＞
- あの顔は、先生、だいぶ飲んでござるな。 ＜痕跡＞

なお、「思う」のような動的展開性のない＜状態動詞＞では、他の西日本方言同様に

アスペクト対立はない。

- ・明日行こうと思よる／思っとるんやけど、無理かもしれん。

④<反復習慣>の意味は、動詞のタイプに関係なく、運動動詞であればすべて表すことができる、シヨル（ショゴザル）形式でもシトル（シテゴザル）形式でもよい。

- ・うちの学校は毎度一回戦で負けよる／負けとる。

この頃では先生が弟子に負きょござるわ／負けてござるわ。

- ・雪かきは太郎の仕事や。毎朝まじめにやりよる／やっとる。

雪かきは校長先生の趣味や。毎朝やりょござる／やってござる。

⑤<痕跡><動作パーフェクト（経験・記録）>の意味は、すべての運動動詞のシトル（シテゴザル）形式が表すが、敬語のシテゴザル形式が使用しにくい場合はある。

- ・留守の間に誰か来とるわ／来てござるわ。（お客さんはいないが、玄関に荷物が置いてあるのを見た場合）
- ・心配したけどあんばよう食べとるわ。えさ皿がからっぽや。
- ・映画のことならあの先生に聞かないよ。たいていの映画を見てござるも。（「みている（みていらっしゃる）から」の意味）

⑥<直前>の意味は、すべての運動動詞のシヨル（ショゴザル）形式が表すが、動詞によっては表しにくい場合もある。

- ・あ、赤ちゃんが立ちよる！あーころんだ。（しゃがんだ格好で今にも立ちそうなのを見た場合）
- ・おじいちゃんがベッドから降りよござる。手を貸してやらんと。（足で布団を脇にどけたりして降りそうな様子であるのを見た場合）
- ・あれ、猫が酒飲みよるよ。飲まんうちに取り上げんと。（猫が酒を飲もうとしているのを見た場合）

⑦シヨッタ（ショゴザッタ）形式は、<非実現>の意味も表す。（この意味は過去形にだけある。）

- ・おっと！指切りよったわ。危ない危ない。
- ・お医者さんでももうちよっとでまちがえて飲みよござったし、この薬は紛らわしゅうてようないな。

以上をまとめると次のようになる。敬語形式の「しょござる」はシヨル形式に、「してござる」はシトル形式に対応する。

図表 3

アスペクト的 意味 動詞のタイプ	進行	結果	痕跡 経験記録	反復習慣	直前	非実現
主体変化動詞	シヨル	/	/	シヨル	シヨル	シヨッタ
	/	シトル	シトル	【シトル】	/	/
主体動作	シヨル	/	/	シヨル	シヨル	シヨッタ
客体変化動詞	【シトル】	シトル	シトル	【シトル】	/	/
主体動作動詞	シヨル	/	/	シヨル	シヨル	シヨッタ
	シトル	シトル	シトル	【シトル】	/	/

愛媛県宇和島方言と比べた場合の違いは、【 】で示した部分である。（なお、宇和島方言には「ござる」形式はない。）

(a) 第1に、高山方言では、＜主体動作客体変化動詞＞のシトル形式が＜動作進行＞をも表すようになっている。（ただし、他の西日本方言と同様に、シトル形式が＜主体変化動詞＞の＜変化進行＞までは表さない。）

(b) 第2に、高山方言では、＜反復習慣＞をシトル形式でも表すようになっている。

(a)で述べたようなかたちでシトル形式の意味が拡張した場合には、＜反復習慣＞もシトル形式で表せるようになる方言は西日本でも見られる。

以上の事実と、既に述べた「みえとる」形式は使用されても「みえよる」形式はほとんど使用されない事実とをあわせて考えると、高山方言では「シテ形式＋存在動詞」のシトル形式の方が優勢になりつつあることを示していると思われる。（工藤(2001)も参照されたい。）

3. 2. 「シラハル」形式との関係

有標のアスペクト形式において、非敬語形式の「シヨル、シトル」と敬語形式の「ショゴザル、シテゴザル」の意味は対応しているのだが、無標の完成相の敬語形式は「シラハル」である。この形式を含めたパラダイムは次のようになる。完成相の敬語形式である「飲みはる」は使用されるが、不完成相とパーフェクト相の「飲みよらはる」「飲んどらはる」はあまり使用されず、「飲みよござる」「飲んでござる」の方が普通である。なお、「飲みよらはる」と「飲んどらはる」を比べると「飲んどらはる」の方が使用されやすいようである⁷⁾。

図表 4

テンス	アスペクト 敬意	完成相	不完成相	パーフェクト相
非過去	非敬語	飲む	飲みよる	飲んどる
	敬 語	飲まはる	飲みよござる ((飲みよらはる))	飲んでござる (飲んどらはる)
過 去	非敬語	飲んだ	飲みよった	飲んどった
	敬 語	飲まはった	飲みよござった ((飲みよらはった))	飲んでござった (飲んどらはった)

4. 「シテミエル」形式のアスペクト的意味

共通語的な言い方と意識されている本動詞「みえる」には、「してみえる」という有標のアスペクト形式だけがある。そして「ござる」の場合と違って、次のように丁寧体形式も使用される⁸⁾。

図表 5

テンス	ていねい さとめ 方	普通体		丁寧体	
		肯定	否定	肯定	否定
非過去		飲んでみえる	飲んでみえん	飲んでみえます	飲んでみえません
過 去		飲んでみえた	飲んでみえなんだ	飲んでみえました (飲んでみえたで す)	飲んでみえませ んでした (飲んで みえななです)

以上の「してみえる」形式は、＜進行＞＜結果＞の両方を表す。この点では、標準語のシテイル形式が表す意味と共通しているが、まったく同じではない。

①＜主体変化動詞＞では＜主体結果＞を表すが、＜痕跡＞を表すこともある。

・あのう、校長先生、来てみえますか？ ＜主体結果＞

・あれ、荷物や。留守の間に誰か来てみえるわ。 ＜痕跡＞

②＜主体動作客体変化動詞＞では、＜主体動作進行＞も＜客体結果＞も表す。

・校長先生があんな高いところ上がってアンテナ直してみえるよ。 ＜動作進行＞

・アンテナは校長先生が直してみえるで、もう映るはずやよ。 <客体結果>

③<主体動作動詞>では、<主体動作進行>も<痕跡>も表す。

・先生ならさっきからご機嫌で飲んでみえるよ。 <動作進行>

・ありゃだいが飲んでみえるな。顔が真っ赤になってござるも。 <痕跡>

④<反復習慣>の意味は表すが、<直前><非実現>および<変化進行>の意味を表すことはない。(最初の例の「そこ」は「お宅」の意味である。)

・そこのお父さんは毎朝ちゃんとした格好でカメラ下げて歩いてみえるな。

<反復習慣>

・この頃は毎日校長先生が窓を開けてみえるよ。 <反復習慣>

・あそこのばあちゃんはあの年で娘夫婦と毎日メールを交換してみえるんやと。

<反復習慣>

以上のようなシテミエル形式のアスペクト的意味は、シテゴザル(シトル)形式のアスペクト的意味と同じである。

本動詞としての「みえる」であれ、アスペクト形式としての「してみえる」であれ、両者は共通語的な言い方として意識されている。このような形式において、方言コードと意識されているシテゴザル(シトル)形式の方の意味と共通することは、高山方言においても、他の西日本方言と同様に、基本的には、「シテ形式+存在動詞」への一本化が進行しつつあることを示していると思われる。現在のところは、方言コードとして「シヨル/シトル」と「シヨゴザル/シテゴザル」の対応があり、それに加えて共通語コードと意識される「シテミエル」が使用されているのだが、今後の若い世代では「シヨル/シヨゴザル/シテゴザル」は使用されなくなり、「シトル/シテミエル」形式の方に徐々に移行していくのではないだろうか。⁹⁾

5. 「シテゴザル」「シテミエル」形式のその他のアスペクト的意味

本動詞の「ござる」「みえる」は、ともに「来る」の意味をも表すことから、次の(1)(2)のようなくしてくる>というアスペクト的意味の敬語としても使用される。

(1) あんたとこの旦那さん、最近太ってござったんでない? / 太ってみえたんでない?

この頃これを買わはる人が増えてござったんですよ / 増えてみえたんですよ。

(2) あの人ずっとあの家に住んでござった / 住んでみえたで、今さら引っ越すのはいややって言わはるやろな。

あの人は若い頃から苦労してござった／苦労してみえたでな。

6. おわりに

以上、高山方言におけるアスペクトと敬語との関係を中心に述べてきた。非敬語と敬語の終止形のパラダイムを示すと次のようになる。

図表 6

アスペクト ムード テンス			完成相	不完成相	パーフェクト相
叙述	断定	非過去	飲む	飲みよる	飲んどる
		過 去	飲んだ	飲みよった	飲んどった
	推量	非過去	飲まず（も） 飲むろう	飲みよらず（も） 飲みよるろう	飲んどらず（も） 飲んどるろう
		過 去	飲んだらず（も） 飲んだろう	飲みよったらず（も） 飲みよったろう	飲んどったらず（も） 飲んどったろう
勸	誘		飲ままいか	飲みよらまいか	飲んどらまいか
命	令		飲め	飲みよれ	飲んどれ

図表 7

アスペクト ムード テンス			完成相	不完成相	パーフェクト相
叙述	断定	非過去	飲まはる	飲みよござる	飲んでござる
		過 去	飲まはった	飲みよござった	飲んでござった
	推量	非過去	飲まはらず (も) 飲まはるろう	飲みよござらず (も) 飲みよござるろう	飲んでござらず (も) 飲んでござるろう
		過 去	飲まはったらず(も) 飲まはったろう	飲みよござったらず(も) 飲みよござったろう	飲んでござったらず(も) 飲んでござったろう
勸 誘			飲まはらんかな	飲みよござらんかな	飲んでござらんかな

以上、アスペクトと敬語形式との関係を高山方言について記述した。今後、このような現象が、どのような方言でどのように表現されているかのバリエーションの記述が必要になってこよう。

また、高山方言について言えば、例えば「赤くなる、赤くない」とは言わずに「赤こーなる、赤こーない」と言う一方、「買うた、笑うた」とは言わずに「買った、笑った」と言うことから、西日本的な要素と東日本的な要素とが混在している点で、きわめて興味深いものがある。今後、高山市周辺の方言も含めての記述も必要となってこよう。

【注】

- 1) 高山方言のインフォーマントとして協力していただいた方々は次のとおりである。後の3名の方については、言語形成期が高山市内ではないため参考として回答していただいた。

清水 由美 (1958年高山市生) 18歳以後東京在住
小池 静子 (1940年高山市生) 現在まで高山市在住 (外住歴なし)
斎藤 洋子 (1942年高山市生) 22歳以後岐阜県吉城郡 (古川) 在住
清水志満子 (1931年大野郡生) 18歳以後高山市在住
堤 玲子 (1970年吉城郡生) 現在高山市在住
谷口 正史 (1946年吉城郡生) 現在高山市在住

- 2) 「開けよる」は「開きよる」とも言うが、「開けよる」の形で代表させることにする。後述の「ござりよる」「飲みよる」「切りよる」等も、「ござりよる」「飲みよる」「切りよる」と言うことがある。ただし短い語では拗音化せずに「しよる」「見よる」「来よる」「着よる」というのが普通である。
- 3) 「ござる」「みえる」が、「行く」の敬語形式として使用されることは基本的にないようである。また、「みえます／みえました／みえません／みえませんでした (みえなんです)」のような丁寧体形式は使用されるが、「ござります」のような形式は使用されない。これは「ござる」形式が、親しい人を相手とする場面に限定されていることを示している。ただし「ござったです」のような言い方は稀に使用することがあるようである。
- 4) 「ござりよる」形式は、①のように<進行>の意味で使用されるとともに、②のように<反復>の意味でも使用される。(②の場合は「ござっとる」でもよい。) ただしどちらも「来よござる」「(買って) 来よござる／来てござる」の方がよく使うとの回答であった。
- ①さっきから校長先生はあそこで何やってござるんや。こっちにござりよってや、戻ってかはるんやぜ。ほれ、またござりよるろ？そんでまた戻ってかはるんやぜな。
- ②新しいチェーンソーが出るたんびにや買ってござりよったら、そりゃいくら金があっても足りんさ。

なお、共通語的な言い方と意識されている「みえる」において、「みえよる」形式の方が使用されないのは、高山方言における、シヨル形式の衰退の傾向を示しているように思われる。

- 5) 「ござる」「みえる」とともに<おる、来る>の意味の敬語形式であるが、「ござらはる／ござらはった／ござらはらん／ござらはらなんだ」「みえらはる／みえらはった／みえらはらん／みえらはらなんだ」のような二重敬語形式も使用されている。また、丁寧体形式の「みえらはります（みえらはりません）」は使用されるが、「ござらはります（ござらはりません）」は使用されない。
- 6) 「飲んでござった、行ってござった」の場合、複合動詞としての「飲んで来た、行って来た」の意味なのか、アスペクト形式としての<パーフェクト（形跡・結果）>の意味なのかは、コンテキスト等によって判断することになる。
- なお、高山方言では、「食う」は卑語ではないので「食よござる」「食ってござる」という言い方が可能である。
- 7) 特に「シヨラハル」形式は使用しにくいようであるが、①のような使用例は可能であるとの回答を得た。ただし、②の方は自然ではなく「起きよござる」を使用するとのことである。
- ①校長先生やに、あれ。あんなどこで酒飲みよらはるえな。体裁わるいなあ。
- ②今朝は珍しい、えらいはよ起きよらはったけど、どっかに行かはるんやろか。
- なお、注3で述べたように「ござる」の丁寧体形式は基本的にない。同様に「シラハル」に対応する「シラハリマス」のような丁寧体形式も頻度は高くないようである。
- 8) 「ござる」の場合と同様に、「飲んでみえた、行ってみえた」が、複合動詞としての「飲んで来た、行って来た」の意味なのか、アスペクト形式としての<進行><結果>の意味なのかは、コンテキスト等によって判断することになる。
- 9) 若い人たちは「ござる」形式を使用しないという報告を得た。今回のインフォーマントのなかで一番若い堤氏は、吉城郡古川町出身で長く高山市内に勤務してきたが、基本的に「みえる」「してみえる」形式を使用するとのことである。従って、今後は、次のようなパラダイムになる可能性が高いと思われる。

図表 8

<本動詞>		<運動動詞のアスペクト>	
		アスペクト	
敬意	非敬語	完成相	継続相
	敬 語	飲む	飲んどる
敬意	非敬語	飲まはる	飲んでみえる
	敬 語	みえる	

【主要参考文献】

- 奥村三雄編（1976）『岐阜県方言の研究』大衆書店
- 木部暢子（2002）「福岡地区の（テ）ゴザル形式・テアル形式と待遇表現の調査」（工藤編（2002）『方言における動詞の文法的カテゴリーの類型論的研究』）
- 工藤真由美（1998）「西日本諸方言と一般アスペクト論」『月刊言語』27-7 大修館書店

- 工藤真由美（2001）「アスペクト体系の生成と進化－西日本諸方言の場合－」『ことばの科学・10』むぎ書房
- 工藤真由美編（2001）『方言におけるアスペクト・テンス・ムード体系変化の総合的研究（2）』科学研究費報告書（大阪大学）
- 工藤真由美編（2002）『方言における動詞の文法的カテゴリーの類型論的研究（No. 1）』科学研究費報告書（大阪大学）
- 工藤真由美編（2003）（印刷中）『方言における動詞の文法的カテゴリーの類型論的研究（No. 6）』科学研究費報告書（大阪大学）

本稿は2001～2002年度科学研究費「方言における動詞の文法的カテゴリーの類型論的研究」によるものである。協力していただいた方々に記してお礼申し上げます。

工藤（文学研究科教授）

清水（千葉大学留学生センター非常勤講師）